

令和 3年 1月

平井由佳 学位論文審査要旨

主 査 鈴 木 康 江
副主査 片 岡 英 幸
同 吉 岡 伸 一

主論文

Emotional intelligence and work perceptions among nurse managers

(看護師長の情動知能と業務の認識)

(著者：平井由佳、吉岡伸一)

令和 2年 Yonago Acta Medica 63巻 343～352頁

参考論文

1. 中学生の協同作業に対する認識と情動知能特性

(著者：平井由佳、橋本由里)

令和 2年 インターナショナルNursing Care Research 19巻 99～107頁

学 位 論 文 要 旨

Emotional intelligence and work perceptions among nurse managers

(看護師長の情動知能と業務の認識)

リーダーの能力の特徴として、他者と信頼と関係を築き、合理的な思いやりを表現する能力を持ち、革新、創造性を包含すると考えられている。情動知能 (Emotional Intelligence : EI) は、自分自身や他者の感情を認識し、自分の感情をコントロールしながら感情を調整することに焦点を当て、適切に行動する能力で、主に対人コミュニケーション場面や社会生活において用いられる非認知的能力である。EIは、チームでの協働や合意形成のための関係調整に役立つ知性で、優れた業績を産むためのリーダーに求められる能力として欠かせない資質と考えられている。看護管理者のリーダーシップと感情的知性の関係を調査した研究において、看護管理者の感情的知性が看護や仕事の満足度やウェルビーイングと正の関連があるとの報告がある。看護師長の機能は切れ目なく最良の看護が提供されるよう、組織の人的・物的環境を整え、その機能発揮に向けて、看護師長には他者と協同して効果的に業務が遂行でき、チームワークを円滑に図る対人的能力や調整能力が求められる。看護師長が、EIを有効に活用し、他者とよりよく協同し、スタッフの人材を有効に活用できれば、看護師長としての機能を発揮でき、部署の目標を円滑に達成できると考えられる。そこで本研究では、看護師長の情動知能特性と看護師長としての役割をどのように認識しているかを調査した。

方 法

中・四国地方の病院30施設に勤務する看護師長約150名を対象に2018年12月～2019年1月の期間に自記式アンケート調査を行った。調査内容は、基本的属性、情動知能尺度 (Emotional Intelligence Scale : EQS) 、公益社団法人日本看護協会が公表した看護師長業務21項目への認識とした。分析は、属性は記述統計、EQSの採点はマニュアルに従い算出した。EQSの3つの領域 (自己対応領域、対人対応領域、状況対応領域) の得点を従属変数として反復測定¹の1要因分散分析を行った。EQSの領域と対応因子について、社会人平均値と比較検定を行った。情動知能の3領域それぞれを高値群・低値群の2群に分け、看護師長業務の重要度の認識の違いがあるか、対応のないStudentのt検定を行い分析した。

結 果

調査協力が得られた15施設、117名から回収し、記入漏れの者を除いた105名を分析対象とした（有効回答率89.7%）。平均年齢は51.7歳、看護師としての平均経験年数は28.8年、看護師長としての平均経験年数は6年であった。看護師長のEQSの3領域得点は、自己対応領域得点が最も高く、対人対応領域、状況対応領域得点との間に有意差がみられた。EQSマニュアルの社会人平均値と比較した結果、全ての領域得点において看護師長の方が得点が高かった。看護師長が重要度が高いと認識している業務の上位3項目は、安全管理、看護の質保証改善、部署の課題明確化/方針立案・運営であった。EQSの各領域得点の高低によって看護師長業務の重要度の認識に違いがあるか、自己対応領域得点の高値群と低値群で比較すると、「部署の課題明確化/方針立案・運営」、「人間関係の調整」、「働きやすい環境作り」、「情報管理」の項目で有意差が認められた。しかし、対人対応領域、状況対応領域においてはどの業務とも有意差は認められなかった。

考 察

本研究の結果から、看護師長の情動知能特性の傾向として、すべての領域の得点が高く、自分自身と積極的に向き合い、自己の心の働きを察知し統制を図りながら、社会接触を好み他者に好意的に関心を寄せていることが明らかとなった。また、自己対応領域得点は看護師長業務に対する認識にも影響を与えており、自己対応領域得点の高い群は、看護師長として組織のマネジメントを重要視し、人間関係の調整や働きやすい環境づくりといった情動知能的配慮と、部署管理・運営等の管理的リーダーシップ行動の両者をバランス良く重要視しており、より看護師長として望ましい資質を備えていることが示唆された。

結 論

看護師長は自己対応領域得点が高く、自己管理能力や他者との関係性を効果的に管理する能力を持っていると考えられ、看護管理者として好ましい資質を備えていることが示された。一部の得点の低値者には、医療組織の管理者として効果的なリーダーシップを実践できるように、情動知能の向上に取り組むこと、また、今後、看護管理職になる可能性のある看護師を対象に、対人対応能力だけでなく自己対応能力も含めた、組織運営に必要なスキルを育成するプログラムを構築することも必要であると考えられる。